

27年度県外視察研修報告

岡谷市立岡谷東部中学校 佐藤 創

研修テーマ

学力向上のための、子どもが主体的に動く授業、学級、生徒会の創造

- 1 視察期日 平成27年10月21日(水)
- 2 視察場所 岐阜市立東長良中学校
- 3 研修報告

(1) 研修の概要

学校において生徒と教師とともに授業をつくっていくというのは当たり前のことであるが、その先進的な実践を行っている東長良中学校の様子から、特に生徒が自ら創り上げる授業を学び、日々の実践に活かしていく。

(2) 研修から感じたこと

参観授業	単元名	授業学級
社会	公民「現代の民主政治と社会」	3年4組

授業でまず驚いたのが、授業クラス以外の学級や、他学年の社会科係と、学習委員の生徒が参観に訪れ、授業の姿から学ぶ良い点や、改善点、そして自分の学級に活かしていきたいことをメモしながら授業参観をしていたことだ。東長良中学校では、生徒会活動において、学習委員会というものが設置され、日々生徒からいろいろなアイデアを出し合い、学習創造を行っている。

授業学級の3年4組の生徒も、教師の問いかけに対してほぼすべての生徒が反応をし、発言を求められたときには、『質問』、『比較関連の立場』、『賛成の立場』によって伸ばす指の本数を変えながら(ハンドサイン)挙手をし、発言の際には必ず座席の外側に移動して、全員の姿が見える位置で発言をしていた。しかも、発言の最後には「どうですか?」と全員に問い、問われた側は、「同じです」、「わかりました」、「なるほど」などの反応をしていた。

また、授業研究会の冒頭でも、学習委員長と3年4組の学習委員、社会科係が出席をし、授業の感想や先生方からの質問に答えていた。

生徒が授業を創り上げる、よりよくしていこうと思考する仕組みが整っていて、活発な授業がなされていた。普通の公立中学校ではあるが、全国学力テストのB問題の正答率は岐阜県でもトップクラスとのこと。生徒が真剣に授業をどうするかを考えることが、生徒の授業への意欲や、思考力・判断力・表現力につながっていると感じた。そして、その生徒の思いにこたえるために、全教員が一丸となって授業改善に取り組もうとする姿が見られた。

授業研究会で、指導者の先生から、東長良中学校は荒れていて、それを改善するために約20年ほど前に子どもが主体の学校・子どもが創る学校を目指し改革を始めたとお聞きした。授業がわからないから荒れる、だったらおもしろい授業をして子どもを授業に引き込むしかないということで、授業の研究が行われ、生徒会でも子どもが教師とともに授業・学校づくりに真剣になって考える体制をつくってきたということ。東長良中学校では各教科ごと中学校3年間の授業の指導案(時案)がつくられ、3年ごとに見直しがされている。まずは教師が授業の中で子どもを育てるということを真剣に考えてこそ、子どもが主体の学校であると感じた。

(3) 研修を通して考える、自分の課題

「授業で勝負」と言われるが、自分は本当に“勝負”できているかと自問し自答してみた。そこまではできていない。学力向上のためには、子どもが自ら課題意識を持ち、その課題を解決していくために自ら調査・研究・思考・判断・行動等をしていくことが望ましい。しかし、それを実現するために、教師が子どもの興味関心を引き付ける手立てを講じることが必要不可欠である。ユニバーサルデザインに通じるが、誰もが考える意欲を持ち、誰もがわかる授業を提供すること、学級経営や生徒会経営においても、最初から子どもが主体的に動くのは難しいので、子どもに見通しを持たせ、やってみたくて思わせる手立てを教師が真剣になって考えることが重要だと感じた。今回の研修を通して、社会科としての指導方法も学ぶことができたが、それ以前に、教師が子どもを育てたいという強い気持ちは持ち、特に授業づくりに時間をかけ、一生懸命に取り組むことが大事だということを知り、生徒が主体的に創り上げることができる基礎を、授業や学級生徒会において築いていきたいと感じた。